



ラムサールシンポジウム 2016

— 中海・宍道湖 —

2016年8月27日(土) - 29日(月) 米子全日空ホテル

シンポジウムのプログラムが決まりました。参加申込みを受付中です。

場所：米子全日空ホテル [鳥取県米子市久米町53-2]

主催：日本国際湿地保全連合 / ラムサールセンター / 日本湿地学会 / 環境省 / 鳥取県 / 島根県
中海・宍道湖・大山圏域市長会 / 中海水鳥国際交流基金財団 / ホシザキグリーン財団

協力：経団連自然保護協議会 / ラムサール条約登録湿地関係市町村会議 / ユースラムサールジャパン

後援：日本野鳥の会 / くまびきジオパーク推進協議会 / バードライフ・インターナショナル東京 / 北海道ラムサールネットワーク / ほか

目的：COP5 (1993年) 以降の日本におけるラムサール条約と湿地に関する取り組み、現状、課題のレビュー / これまでに国内で得られた湿地の保全と賢明な利用の経験・技術・手法等のとりまとめと共有 / COP12で採択された「決議XII.9：CEPAプログラム2016-2024」の実施、とくに湿地管理者への支援と関係者の連携の強化 (CEPAとはコミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発の総称) / 国内における湿地の賢明な利用のいっそうの促進 / 2017年に開催が計画されているアジア湿地シンポジウムに本シンポジウムの結果を発表して議論を促進、さらに2018年のラムサール条約COP13 (ドバイ) に両シンポジウムの結果を発信し、COP13における議論に貢献する

対象：日本のラムサール条約湿地及びその他の湿地の関係者、湿地の保全と賢明な利用に興味のある 研究者、NGO、学生、市民の方々

ラムサールシンポジウム2016実行委員会事務局 (日本国際湿地保全連合内)

Tel: 03-5614-2150 / info@ramsar2016.org / http://www.ramsar2016.org



8月27日(土)

14:00 ~ 18:00 宍道湖フィールドエクスカージョン (集合・島根大学 申込制)

19:00 ~ 懇親・交流会 (全日空ホテル・申込制)

※17:30 ~ 「中海夕暮れコンサート」(湊山公園湖岸で・参加自由)

8月28日(日) 「ラムサールシンポジウム2016 in 中海・宍道湖」開会 (米子全日空ホテル)

9:00 ~ 受付開始

9:30 ~ 10:00 開会式

10:00 ~ 12:45 **特別セッション** (公開) ※特別セッションのみの参加は入場無料です。(申込制・先着150人)

申込・問合せ先：島根県環境政策課 宍道湖・中海対策推進室

TEL: 0852-22-6445 / E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp

10:00 ~ 10:45 **トークショー 中海・宍道湖とトゥギャザーしようぜ!**

出演：ルー大柴さん

神谷 要さん 米子水鳥公園ネイチャーセンター館長

中畑勝見さん 宍道湖自然館(ゴビウス)館長

10:55 ~ 12:45

事例発表：

中海自然再生協議会 / くまびきジオパークプロジェクトセンター / 中海再生プロジェクト / 未来守りネットワーク / 大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会



ルー大柴

1954年東京・新宿生まれ / 日本語と英語をトゥギャザーした話術の独自キャラクターで活躍 / NHK「みんなのうた」の「MOTTAINAI」をキツカケに富士山麓の清掃活動などに取り組み、環境省「いきもの応援団・生物多様性リーダー」を務める。ドジョウ・メダカの採集や水墨画、茶道 (遠州流師範) など趣味多彩 / 山野美容芸術短大客員教授。

14:00 ~ 17:30 **セッション1：日本の湿地をとりまく状況はどう変わったか**

14:00 ~ 14:30 **基調講演：**湿地の保全の20年と今後の展開..... 島谷幸宏 (九州大学・日本湿地学会)

14:30 ~ 17:30 **事例発表：**

地球環境条約としてのラムサール条約 金子与止男 (岩手県立大学)

ラムサール条約と国内の湿地の保全 辻田香織 (環境省野生生物課)

日本のラムサール条約登録湿地における戦後60年間の環境変化 安藤元一 (ヤマザキ学園大学・ラムサールセンター)

2005年のラムサール条約登録湿地20か所新規指定とその後 名執芳博 (日本国際湿地保全連合)

生態系を基盤とした防災・減災 (Eco-DRR) における湿地の役割について 古田尚也 (国際自然保護連合)

CEPAの拠点としての湿地センターの役割と重要性 中村玲子 (ラムサールセンター)

米子水鳥公園における湿地間の国際交流 神谷 要 (中海水鳥国際交流基金財団)

東京湾の人工海浜がなくなると海苔のまちの記憶 小山文大 (大森 海苔のふるさと館)

ラムサール条約登録湿地に北陸新幹線が通る 笹木智恵子 (ウェットランド中池見)

京都・伏見のヨシ原の歴史、現状と課題 赤松喜和 (龍谷大学)

17:45～18:45	<p>ポスター発表</p> <p>幼児から大人まで～米子水鳥公園における長期的環境学習プログラム～ 桐原佳介 (中海水鳥国際交流基金財団)</p> <p>都市と湿地の融合ー湿地文化を蘇る 康 馨藝 (上智大学地球環境学研究所)</p> <p>平潟湾 水質汚染からの回復と、過去30年間の鳥類調査 山田悠生 (関東学院六浦高等学校生物部)</p> <p>育てよう！みんなの中海 奥森隆夫 (未来守りネットワーク)</p> <p>ラムサール条約湿地「東海丘陵湧水湿地群」での湿地保全と環境学習の取り組み 大畑孝二 (日本野鳥の会)</p> <p>宍道湖西岸に位置する入江 (十四間川) の環境改善に向けての協働事業について 越川敏樹 (ホシザキグリーン財団)</p> <p>ラムサール条約登録湿地宍道湖の畔にある宍道湖グリーンパークの施設特性と活動について 森 茂晃 (ホシザキグリーン財団)</p> <p>宍道湖自然館における団体利用者の学習利用の動向 田久和剛史 (ホシザキグリーン財団・島根県立宍道湖自然館)</p> <p>皆さん、中海に棲む魚や貝を知っていますか (古布で中海の魚貝を造りました) 中原義之 (ねこじゃらし)</p> <p>湧水湿地研究会による東海地方の湧水湿地インベントリ作成 富田啓介 (愛知学院大学)</p> <p>愛媛県西予市におけるナベヅルのため池利用について 伊藤加奈 (日本野鳥の会自然保護室)</p> <p>越後平野に卡ろうじて残された自然「里瀧」ー新潟市の取り組みー 隅 杏奈 (新潟市地域・魅力創造部 潟環境研究所)</p> <p>京都・伏見のヨシ原の保全及び利活用事業 秋元省吾 (龍谷ODEN)</p> <p>都立葛西臨海公園における市民参加型環境管理イベントの取り組み 大原庄史 (生態教育センター)</p> <p>根室市春国岱における協働によるハマナス群落復元の試み 善浪めぐみ (日本野鳥の会 根室市春国岱原生野鳥公園)</p> <p>谷津干潟自然観察センターのCEPA活動と地域協働の取組み 芝原達也 (谷津干潟自然観察センター)</p> <p>ラムサール条約を活かした琵琶湖湖北地方における世界湿地の日の活動 (2011～2016) 須川 恒 (龍谷大学深草学舎・琵琶湖ラムサール研究会)</p> <p>ラムサール条約湿地登録干潟のワイズユースに係る県の役割と取組 藤木美和 (佐賀県民環境部有明海再生・自然環境課)</p> <p>自然と景観を守る都市と農村の交流施設「夕日の郷松川」 岩本宗一郎 (大洗町地域おこし協力隊 夕日の郷松川)</p> <p>博多湾東部多々良川河口域における鳥類保全に関するCEPAの取り組み 富山雄太 (九州大学工学研究院)</p> <p>持続可能な環境教育の取り組みについて～ KODOMOラムサール湿地交流in浜頓別～ 小西 敢 (浜頓別クツチャロ湖水鳥観察館)</p> <p>侵入アオサ類によるグリーンタイドが谷津干潟の生態系に及ぼす影響 矢部 徹 (国立環境研究所)</p>
-------------	--

8月29日 (月)

6:30～8:30	中海エクスカッション (申込制)
9:00～12:30	<p>セッション2：湿地を地域にどう役立てるか</p> <p>基調講演：「蕪栗沼・周辺水田」、「化女沼」を核とした湿地の保全と活用 鈴木耕平 (大崎市産業政策課)</p> <p>事例発表：</p> <p>沖縄県のラムサール条約登録湿地とこども環境会議について 賀数 弘 (那覇市環境保全課)</p> <p>渡良瀬遊水地の賢明な利用 (環境・自然学習) 久米田貴彦 (小山市渡良瀬遊水地ラムサール推進課)</p> <p>住民が復活させた野焼きがくじゅう坊ガソル・タテ原原原を守る 高橋裕二郎 (飯田高原野焼き実行委員会)</p> <p>漁民の森づくりの実績と展望：里山・里川・里海の実現に向けて 岩崎慎平 (福岡女子大学)</p> <p>湿地の恵みを地域につなげる協働のあり方ーKODOMOラムサールを例に 高橋朝美 (環境パートナーシップ会議)</p> <p>ラムサール条約湿地に対する市民のイメージと湿地利用 浅野敏久 (広島大学)</p> <p>日本の湿地が訪問客に選ばれるための持続可能な観光の国際基準 高山 傑 (アジアエコツーリズムネットワーク・日本エコツーリズムセンター)</p> <p>ESDから見た「湿地の文化」の取り組み 笹川孝一 (法政大学)</p> <p>湿地の文化的サービスに着目したプレイスブランディング：湿地資源の「n次利用」の提言 敷田麻実 (北陸先端科学技術大学院大学)</p> <p>北海道小樽市小樽運河におけるCEPAの実践に関する考察 竹川章博 (上智大学大学院地球環境学研究所)</p>
13:30～16:40	<p>セッション3：湿地の管理に携わる人々の活動を強化するには</p> <p>基調講演：水鳥の保全と湿地センターの役割ー伝え、つなげ、育てる場 市川智子 (東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ事務局)</p> <p>事例発表：</p> <p>ラムサール条約登録湿地関係市町村会議について 柴田美貴 (ラムサール条約登録湿地関係市町村会議事務局・名古屋環境活動推進課)</p> <p>北海道の湿地と人をつなぐネットワーク活動 牛山克巳 (宮島沼水鳥・湿地センター)</p> <p>湿地のファンドレイジング 阪野真人 (霧多布湿原ナショナルトラスト)</p> <p>次につなぐ ～地域への愛着を育むふるさと教育～ 成田和博 (豊岡市コウノトリ共生課)</p> <p>中学生～大学生だけで設立、運営する湿地学習のNGOユースラムサールジャパンの活動 佐藤湧馬 (ユースラムサールジャパン)</p> <p>水田の生物多様性に関する政府とNGOの意見交換と、田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト 柏木 実 (ラムサール・ネットワーク日本)</p> <p>干潟生物市民調査法による津波後の生物多様性モニタリング 鈴木孝男 (みちのくベントス研究所)</p> <p>ラムサール条約を活かした湿地保全活動ー世界湿地の日 in 湖北ー 須川 恒 (龍谷大学深草学舎・琵琶湖ラムサール研究会)</p> <p>釧路湿原におけるエゾシカ管理手法を探る 小林聡史 (釧路公立大学)</p>
16:45～17:30	まとめのセッション：これから私たちは何をしたらいいのか
17:30	閉会